



第6回アジア・オセアニア気象衛星利用者会議開催と講演募集のお知らせ

気象庁は第6回アジア・オセアニア気象衛星利用者会議を下記要領で開催します。会議での講演を広く募集します。

日時：2015年11月10日（火）～11月12日（木）

会場：東京都内

目的：アジア・オセアニア地域はしばしば台風、モンスーンに伴う豪雨、火山噴火、黄砂、洪水、海水、森林火災等の激しい自然現象の影響を受けています。加えて、気候・環境監視の重要性が増し、世界的な関心が高まっています。防災、気候・環境監視への利用に資する観測情報を高頻度かつ広範囲に提供する気象・地球観測衛星は、今日では不可欠なものになっています。

アジア・オセアニア地域の気象・地球観測衛星の歴史は1977年に「ひまわり」が打ち上げられたことに始まります。今日では、中国、ヨーロッパ、インド、日本、韓国、ロシア、アメリカが、アジア・オセアニア地域で気象・地球観測衛星を運用し、世界気象機関（WMO）が推進する全球観測システム（GOS）の一翼を担うとともに、地球観測に関する政府間会合（GEO）が調整する全球地球観測システム（GEOSS）にも貢献しています。

2014年10月に打ち上げが成功した新しい静止気象衛星「ひまわり8号」は、最先端の観測技術を有する放射計を搭載しており、アジア・オセアニア地域の防災、気候・環境監視にこれまで以上の貢献が期待されています。

2015年は、このひまわり8号の運用開始を7月頃に予定し、静止気象衛星の新しい歴史が始まる記念すべき年です。このような背景のもと、アジア・オセアニア地域における気象・地球観測衛星データの利用者間における利用技術の交換を更に深めると

もに、衛星観測の技術を高め、気象・地球観測衛星に関する共同開発を推進するために、第6回アジア・オセアニア気象衛星利用者会議を開催します。

会議のトピック：

主なトピックは以下のとおりです。

- ・現在及び将来の気象・地球観測衛星の計画
- ・衛星データのアクセス及び利用促進
- ・衛星観測からの大気パラメータ導出
- ・天気解析及び災害監視への衛星データの利用
- ・数値予報への衛星データの利用
- ・気候・環境監視への衛星データの利用
- ・衛星観測からの地表面・海洋パラメータ導出
- ・衛星データ利用に関する能力開発・研修活動
- ・ひまわり8号の現状とその応用

講演募集：

応募締め切り：2015年7月31日（金）

参加費：無料

発表言語：英語

第6回アジア・オセアニア気象衛星利用者会議のホームページ <http://www.jma-net.go.jp/msc/en/aomsuc6/index.html> より登録フォームをダウンロードして、必要事項を記入の上、e-mailで下記のアドレスまで送付してください。アブストラクトはA4用紙1枚以内の英文でお願いします。詳細は会議のホームページをご覧ください。

主催：気象庁

問い合わせ・講演申込先：

第6回アジア・オセアニア気象衛星利用者会議事務局
（気象庁気象衛星センター）

E-mail：aomsuc-6@dpc.kishou.go.jp